第 48 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	奥田ゼミ II	**チーム名**	単体。
タイトル	「西部邁の経済学への批判」		
テーマ群	ｆ）歴史・思想		
メンバー			
研究計画内容	西部邁といえば、2018 年 1 月 21 日に自殺し世間を騒がせたことは記憶に新しい。この騒動から興味を持ち調べてみると西部は現在の肩書きは評論家であるが、同氏は東京大学では経済学部を卒業し、『ソシオエコノミクス』・『経済倫理学序説』・『大衆への反逆』など経済学に関する著書を数冊残しており、経済学に関する発言も多く見られる。しかし、ある時期からパッタリと経済学への言及が見られなくなる。それどころか、過去に自分が提示してきた経済学に対しても、苦言を呈し、批判するようになった。 また、西部は海外へ渡り、自身の経済学への批判を確固たるものにするために、敢えて経済学の本場へ渡り経済学の本質を学ぶということさえも行った。 ここで、いくつかの疑問が生じる。まず、彼は著書の中でマルクス経済を批判したりと、あらゆる経済学を認めているわけではなかった。では、彼が認めていた経済学とはどのような経済学であったのか。さらに、もう一つの疑問は、なぜ一度はある程度とはいえ認め、これまで学んできた経済学に見切りをつけたのか。そして、彼にとって経済学とはどのようなものであり、見切りを付けた後は、何を目指し、何を行おうとしていたのか。 私は現在の経済体制で頭打ちとなった、日本経済ひいては国際経済の突破口や改善点を見つけるヒントが西部の経済論や批判理由を見ることで得られるのではないかと考える。 そのため今回の研究では、上記の疑問点を中心に西部の経済観と経済批判への理由並びに、経済学への興味の喪失の流れを追うことで日本経済や国際経済の抱える課題への解決の糸口となることを期待する。		